



しつけ

基本は「ほめる」、「しかる」

「ほめる」、「しかる」はすべてのしつけの基本となるものです。犬は人間社会の善悪を知りません。それはすべて人が教えなければなりません。

犬が飼い主の意志に従ったときは、すぐその場で、少しオーバーなくらいほめます。反対によくない行動には、その場で強く、短くしかります。これらを何度か繰り返すと、犬はすぐその意味を理解し、よい犬に育ちます。

人をかまない

犬にはかむ習性がありますので、強くかむと嫌われることを教えます。手などにじゃれてかみつくと痛いことがあります。この際にはしっかりとしかります。このように人に歯を立ててかんではいけないことを学習した犬は、万が一かみついて、深い傷を追わせることはありません。

排せつ

排せつのしつけは子犬を迎えたときから始めましょう。室内で飼うときは当然ですが、外で飼うときでもどこか一カ所に排せつさせるのが必要です。失敗しない最も良い方法は、家に迎え入れてすぐ、

前もって決めておいたトイレに、

オシッコなどと優しく声を掛けてさせることです。そこがトイレであるとわからせるために、子犬の譲渡先から尿のついた紙片をもらってきて、トイレにおいて臭いがかがせて教えます。そして、ちゃんとトイレで排せつしたときは十分にほめてやるのが大切です。

市民の皆さんへ

今回は「犬」の飼い方を中心に取り上げましたが、これらのことは犬に限らず猫など、ペット全体に共通するものだと考えています。一部の心ない人のために、ペットを飼っている人及び地域住民みんなに迷惑がかります。迷惑をかけることを考えれば、ペットを飼うときはルール、マナーを守るというのは当然ですが、守れない人や守る自信のない人は飼うべきでないでしょう。

モラルの低下については、広報で取り上げるまでもなく、皆さんも日ごろから感じていることがたくさんあるのではないのでしょうか。そこで、犬に限らず、空き缶のポイ捨て、通常の生活のことなど、モラルについて意見をお寄せください。「苦情」、「対策」、「私(他の人)が行っている良い事例」など、何でも構いません。この問題についてみんなで考えてみましょう。

しつけのポイント

迷惑犬にならないために

1. 飼い主が頼れる人だと認識させる

決めた時間に食事を与えるなど、飼い主に頼らなければ生きていけない立場であることを認識させる。

2. 一匹でいることになれさせる

犬はとても淋しがりがやです。「むだ吠え」は本能的な別離の不安の表れです。生後1カ月ごろから、1日5～10分、一匹でいる時間を作ります。

3. 玄関などの出入りは必ず飼い主から

飼い主の家や敷地などからの出入りは、犬を飼い主より先に行かせないように。

4. 服従心を向上させる

まいにち、オスワリ、フセ、マテのトレーニングをしましょう。日毎に少しずつ時間を延ばしていくのがコツです。

5. 常に飼い主が勝者になること

遊ぶときは犬があまり興奮しないように短く区切って遊び、最後は必ず飼い主が勝つようにしましょう。